

世界をつなぐ架け橋

音楽文化デザイン学科音楽創作専修 4年 櫻井唯乃

人は誰しも音楽に影響を受けたことがあるのではないだろうか。音楽を聴いて感動したり、ウキウキしたり、涙が浮かんできたり：大なり小なりそういう経験はあると思う。特に音楽に携わっている者にとって、人生が変わるような音楽との出会いが一度はあってもおかしくないかもしれない。音楽は人に影響を与える。音楽は人を変える。音楽はそんな大きな力を持っていると私は信じている。

音楽はときに世界をも動かす（歴史上でもその力を良くも悪くも利用した例が挙げられる）。また、音楽は何かを伝えたいという強いメッセージをのせて使われることもある。ワシントン大行進のときに歌われた《WE SHALL OVER COME》、ジョン・レノンの《IMAGINE》…これらの曲は平和のために人権を守るために歌われ、今でも人々の心に残っている。

このように平和を祈って作られ、歌われている歌が日本にも存在するのだ。「21世紀、ヒロシマから生まれたIMAGINE」とも言われる《ねがい》という合唱曲である。この歌は2002年3月、広島市大洲中学校3年生の平和学習から生まれた。それから数年の間に、この歌はヒロシマから世界中へ伝え渡り、今もなお広がりに続けている。

そして、この《ねがい》という歌について記した本がある。それが『世界をつなぐ歌「ねがい」』である。この本では《ねがい》が作られたプロセスだけではなく、「NEGAI Connection」ねがいコネクション・プロジェクトという活動が紹介されている。

この活動は、「各国語に訳して歌うだけではなく、4番まである原曲にオリジナルの5番の歌詞を作り、世界中でつなげていこう」というものであり、チェルノブイリ、ベトナム、ケニア、イラン、韓国など世界中に広がった。各国のことで歌われる《ねがい》とそれにまつわるエピソードや、戦争やその後遺症、人種差別など、さまざまな理由により傷を負った人々の思いや願いに触れることができる。理由は違えど、平和を求める思いは変わらない：世界共通の「音楽」という文化が土台にあるということが、この活動が大きく広がった理由のひとつと言えるのだと、私は

思う。

音楽はノンバーバル・コミュニケーションのひとつである。だからこそ、音楽には人を動かす力、世界を変える力があるのではないだろうか。ほら、耳を澄ませてみよう。すると、平和を祈り、愛を語る歌が世界中から聞こえてくるのではないだろうか。



請求記号●J109-564
三輪純永『世界をつなぐ歌「ねがい」』新日本出版



皆さんはクラウディオ・モンテヴェルディ作曲の《オルフェオ》をご存知でしょうか？

そう、音大生ならば、音楽史の授業で「オペラ創成期の傑作」だとか「オペラという形が成立した作品」だとか、そんな感じで聞き流したことがあるのではないのでしょうか。或は、2010年3月のオルフェオ研究会による公演を観に来て頂いた方もいるかも知れません。

この作品、実は、とっても奥が深く面白くて楽しくて、とても授業で聞き流せるようなもんじやない作品なんです。

私が《オルフェオ》と関わる事になったのは、大学2年生の時、大塚直哉先生の「西洋古楽研究」という授業のことでした。元々、「古楽」が大好きだった私は、チェンバロやヴィオラ・ダ・ガンバとアンサンブルでできるこの授業が大好きでした。その中で、初めて演奏したのが、《オルフェオ》の冒頭（音楽（ムジカ）による「プロローグ」だったのです。

この作品は1607年初演、つまりバロック時代初期のものなので、考え方や演奏の仕方など、現代とは違うところが至る所にあります。概念が擬人化？、語る様に歌う？、リトルネッロ？、そんな様々な疑問を解決出来ないかと映像を片っ端から観て一番気に入ったのが、ジョルデイ・サヴァル指揮の《オルフェオ／モンテヴェルディ》です。

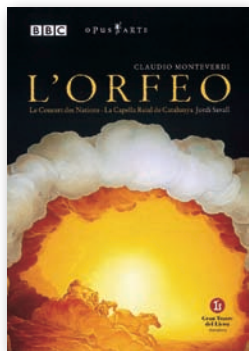
客席の中、風を切って指揮者台へと歩いて

行くサヴァル氏。会場に高らかに鳴り響く

ファンファーレ。躍動感が溢れつつも清らかな音のするオーケストラ。そして、言葉がわからなくても何を言っているのか、何を思っているのかダイレクトに伝わってくる歌。いつの間にか、画面いっぱい広がるバロックの世界に完全に惹き込まれていました。

この作品から、オペラは、音楽は勿論、文学、哲学、美術と様々な要素があつてこそ成り立つ総合芸術なんだという認識を改めてする事が出来ました。だからこそ、音楽家である以上、音楽だけに特化して学ぶのではなく、音楽を取り囲む要素を知る事も、私達音楽家の本来あるべき姿なのではないかという考えに行き着きました。

目の前にあるものと向き合うことも大切ですが、自分の視野を広げたところにあるものは、きつと新しい発見をさせてくれます。たまには、思いつきり古いものに目を向けてみては如何でしょうか。



請求記号●VE383
『オルフェオ』Opus Arte
OA 0843 D

●かぶらぎあや 春は出会いと始まりの季節。しかし、私にとっては花粉症の季節でもある…。心浮かれないのに、浮かれられません。

学内LANが稼動しました

4月から学内LANが稼動しましたので、図書館のOPACや図書館で契約しているデータベース、楽典・映像配信サービスの、学内での利用方法が変わりました。メディアセンターや研究室など学内の施設からならば、学内LANでのアクセスになるため、「利用者ログイン」が不要になります。図書館ホームページに学内LAN用のリンクを作りましたので、そこから利用してください。自宅や大学の外から利用する場合は、これまでどおりインターネット経由のため、「利用者ログイン」から利用してください。

なおデータベースの利用には決まりがあります。論文の大量ダウンロードや、他人へのファイル配布などは禁止されています。個人の調査研究のため、著作権や利用条件を守ってご利用ください。